

檀原地区モビリティサポートモデル事業 の概要について

今井町ユビキタス計画協議会



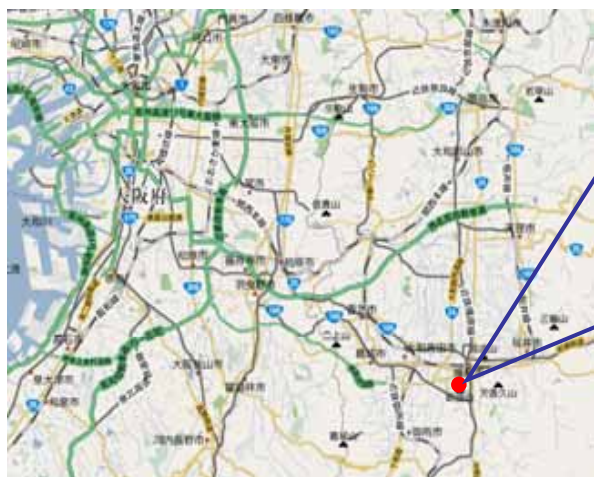
奈良県橿原市今井町の概要



重要伝統的建造物群保存地区・今井町



- 種別 寺内町、自治都市
- 選定年月日 平成5年12月8日
- 面積 0.00174km² (17.4ha)
- 人口 2,349人 (平成21年4月1日現在)
- アクセス 近鉄橿原線 八木西口駅下車、南西へ徒歩約3分





北

今井町全体航空写真





今井町の町角

当時は、外敵の侵入を防ぐために町角を屈折させていたものが、今では観光客に不便なものとなっている。

今井町の道路

どの道路も見通しがきかず、初めての者には自分の位置が理解しにくい。



今井町の観光

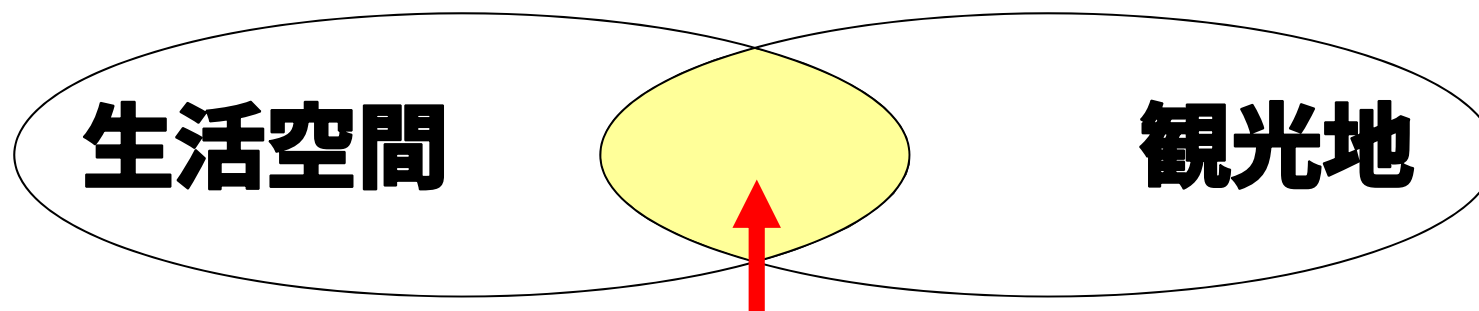
今井町内の観光情報が少なく、飲食店、トイレ、土産物店などを見つけにくい。



事業概要・特徴

- テーマ 観光客と住民がストレスなく共存するためのユビキタス環境整備
- ターゲット 少人数での観光客
- 利便性 今井町のルートガイド（重文、店舗、トイレの位置他）
- 独自性 地元の方が画面に登場して説明

重要伝統的建造物群保存地区「今井町」



榎原地区モビリティサポートモデル事業の目指すところ



1. 高木家
2. 河合家
3. 音村家
4. 旧米谷家 (母屋)
5. 上田家
6. 今西家
7. 春日神社
8. 豊田家
9. 称念寺 (外)
10. 中橋家
11. 恒岡醤油店

●A～●H 引返しナビ用無線マーカー

凡例 カーブミラー等 ●街灯付電柱 ●木造構造物(家屋等)

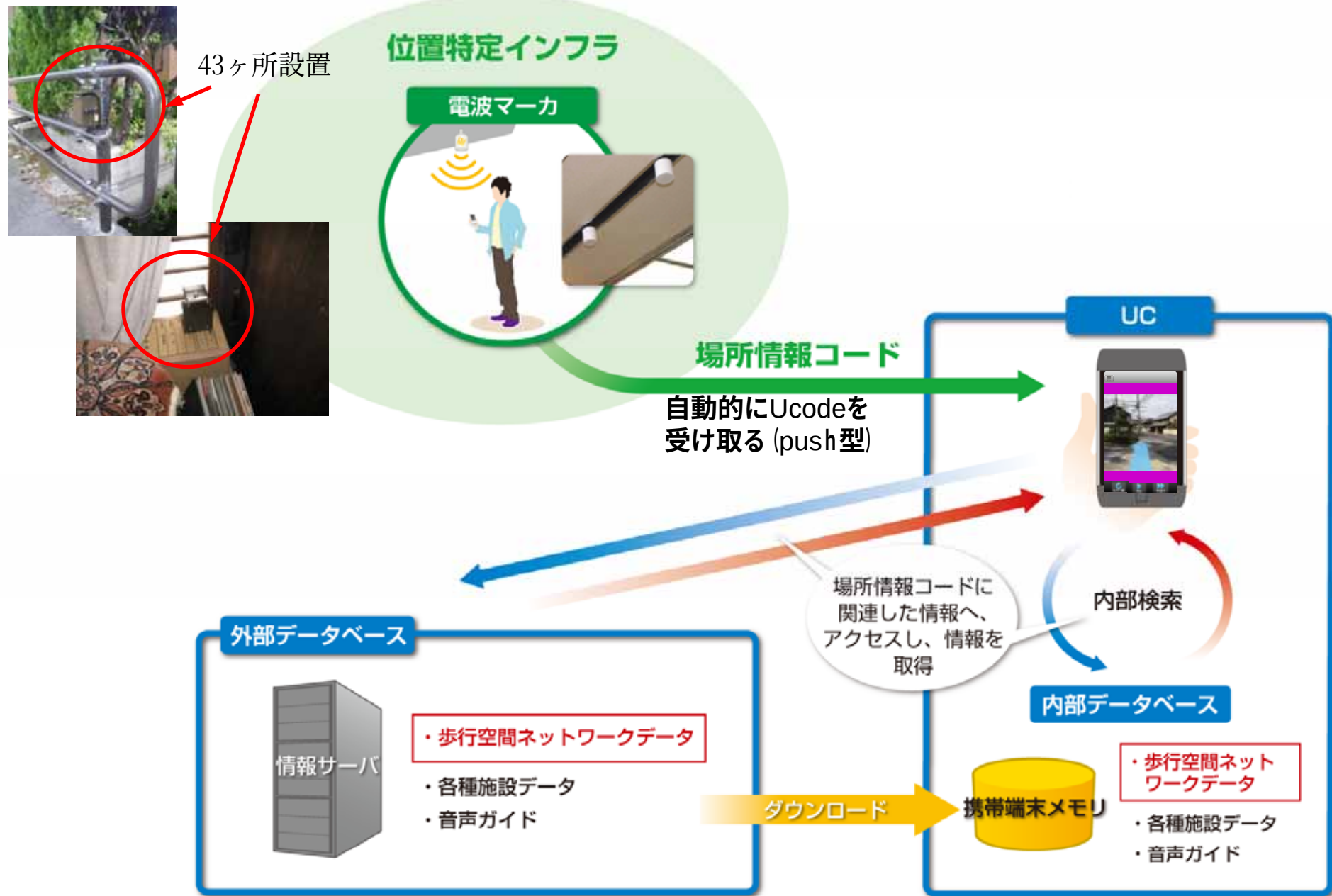
重要文化財めぐりルート(長時間コース／約2時間)

町並みめぐりルート(短時間コース/約40分)

華豐

高懸市御社 まちづく
交流セン

ユビキタス技術を活用した自律移動支援システムの概要（イメージ）



移動支援サービス実施概要

移動支援サービス提供期間 平成21年10月4日（事前体験会） 平成21年10月9日～12月13日
--

運用体制

午前9時～ 午後1時～ UCを各15台を貸出
平日：今井まちなみ交流センター「華薺」職員
が貸出業務を担当
土日：アルバイト1人を配置し貸出業務を担当

体験者総数 382人



移動支援サービスの様子



事業結果①

UC体験者アンケート

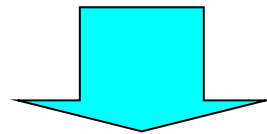
(有効回答 382人)

- 男女半々で3人に1人が50歳代
- 7割以上の方で好評を得た
- 殆どが地元住民と会話を交わした

地元住民アンケート

(有効回答 118人 回答率59%)

- 観光客が増えることを75%が望んでいる
- 体験者を見かけた住民の33%が会話を交わした



- ユビキタスコミュニケーターを利用し、操作回数を極力少なくしたpush型の移動支援サービスの提供は、高齢の観光客が多い地域では有効であることが分かった。
- あらかじめルートを設定し、観光客が訪れるエリアとそれ以外のエリアを分けることで、住民のプライバシーへの配慮や、自転車や車の安全な通行への一助となった。
- 地元住民も移動支援サービス内容を事前に把握していたので、ユビキタスコミュニケーターを持った観光客と交流を図ることができた。

事業結果②

達成目標（評価指標）	達成状況（評価）
生活空間としての地域性を活かしながら、観光地と息づくための媒介となるシステム構築。地域住民のプライバシーを確保しながら、気持ちよく観光客を迎え入れる「もてなしの心」の発揮。 【評価指標】 ・地元住民等のシステム構築に対する参画度 ・住民アンケート等による本事業の認知度	・コンテンツには、すべて地元住民が画面に登場して説明 ・今井町住民の 57% が本取組を知っていた ・UC体験者のほとんどが、今井町住民と会話した ・UC体験者を見かけた地元住民の3人に1人は、会話を交わした
観光散策における、観光客と地域住民双方の安全の確保 【評価指標】 ・観光客のルートガイドの方法 ・観光客へのアンケート ・地元住民へのアンケート	・ルートガイドは音声中心で行い、映像は補完的に利用することで、体験者は周囲の状況も把握しながら散策できた ・操作回数を極力少なくしたpush型の移動支援サービスの提供により、UC体験者の71%の方がUCから必要な情報を効率良くルートガイドに沿って散策できた。 ・UC体験者の 76% がUCの機器も使いやすかったと回答

今後の展開

〔実施内容〕

- ユビキタスコミュニケータを利用したpush型の移動支援サービスを提供する。今年度実施したルートガイドを発展させた自由にエリア内を観光できるナビゲーションシステムにまで構築して情報提供を行いたい。

〔実施体制・資金〕

- 専用端末を利用したpush型の移動支援サービスを恒常的に実施するには、インフラ整備に多額の費用が必要となるので、さまざまな枠組みから資金調達できないか検討する。
- インフラ設置後の運用については、地元のNPO団体、観光ボランティアガイドの会などにおいて機器の貸し出しなど業務を対応できないか協議を進める。
- 運用に係る費用を地元店舗や旅行社などと提携して確保できないか検討及び働きかける。

水平展開

項 目	アドバイス	課 題
狹隘道路等の道に迷いやすい地域での移動支援情報の提供	・ UCを利用し、push型の情報提供により機器操作の回数が少ない	・ 専用機器を利用しているのでインフラ整備に多額の費用が発生 ・ 機器の設置に工夫が必要（文化財等が多い為）
屋外で音声を中心とした移動支援情報の提供方法	・ 音声を中心とした情報提供により周りを見ながら観光できる。また、視覚に障がいがある方にも利用いただける	・ 音声を中心とした情報提供により、騒音が激しい場所や聴覚に障がいのある方には適さない
住空間と観光地が共存する場合の情報提供方法	・ ルートガイドにより観光客が立ち寄るエリアとその他のエリアを分け、住民のプライバシーも配慮 ・ 観光客に対して地元住民の表情が見える移動支援サービス情報の提供	・ 機器の設置に工夫が必要（住民の家屋内に設置させてもらうなど）